

## 社会調査実習「最終報告会」

退職して1年、昨年の今ごろが気になり手帳を見てみた。どうもペースがつかめず、イライラしている様子がわかる。そんな落ち着かない中で、昨年4月11日4限からの社会調査実習「最終報告会」に出向いたことを思い起す。最終年度に担当した「山田班」12名も報告するので、この日を楽しみにしていた。10日ぶりに大学に行ったが、ウロウロして教室に向かった。退職して間もないのに、どうも勝手が違う感じがした。

写真は同僚の藤田さんが送ってくれたものだ。懐かしの201教室で学生たちを前に、いくぶん緊張気味に挨拶している。出だして「ダジャレ」らしきことを述べたが、かすかに笑い声が聞こえた。この1年間の調査を振り返り、実習の成果をじっくり聴きたい、と話したと思う。

この写真をよく見ると、教室中ほどに車椅子の石川さんが写っている。私の最終講義の時と同じ場所だ。その時と同じく熱心にメモを取っている。彼は報告会では、いつも細かくメモを取り、かなり厳しいコメントを書くことが多かった。社会学者らしく、調査の方法から始まり、論証の仕方など専門的な指摘であった。



この時は学生たちが来て、彼とはほとんど話さなかった。その後の悲しい「出来事」を考えると残念であった。

今年もまた10日の社会調査実習「最終報告会」で、「総括コメント」を頼まれている。「もうお役ご免」「もうインカレ」と考えていたが、せっかくの依頼なので引き受けた。どんなコメントをするか迷うが、とりあえず次のようなメモを書いてみた。

私が社会調査実習を担当して、実習メンバーの皆さんに指摘してきたのは、主に次の4点である。皆さんの報告についても、こうした角度から私なりにコメントしたい。

- 1 調査テーマ・課題を明確にしたか。何を明らかにしたいか、調査仮説と調査内容を含め、全体のストーリーを提示できたか。
- 2 調査に向け、きちんと準備できたか。同種の調査が行われていることが多く、先行調査・関連文献をしっかりフォローしたか。
- 3 調査方法をよく検討し、アンケートやヒアリングなどで汗をかき、成果が得られたか。調査課題や仮説を実証できたか。
- 4 調査した成果を体系的にとりまとめ、データ・論点を整理して、明快に報告(プレゼン)できたか。

(2015年4月8日)